

各位



一般社団法人ナレッジキャピタル
株式会社 KMO



学校を超える、自分も超える ナレッジキャピタル超学校
大阪大学×KNOWLEDGE CAPITAL 全3回の連続講座
「1に観察、2で仮説、3,4は実験、5で発見！」開校決定
第1回目は、ノーベル生理学・医学賞で話題の
「オートファジー(自食作用)」について、その働きと研究内容を紹介

一般社団法人ナレッジキャピタル(代表理事:宮原 秀夫)ならびに株式会社 KMO(代表取締役社長:三好 雅雄)は、「ナレッジキャピタル超学校 大阪大学×KNOWLEDGE CAPITAL 『1に観察、2で仮説、3,4は実験、5で発見!』」の開校が決定しましたのでお知らせいたします。

ナレッジキャピタル超学校は、一般生活者と研究者と一緒に考え、対話するプログラムです。会議室での授業形式ではなく、開放感のあるカフェ空間でドリンクを片手に受講できるのが特徴で、2015年度は約50の講座を開催し、毎回多くの方に参加いただきました。



今回は、大阪大学の新しいシリーズとして、「観察→仮説→実験→発見」という科学的検証のプロフェッショナルである研究者3名が登場します。

第1回目は、大阪大学大学院生命機能研究科教授の吉森先生が、ノーベル生理学・医学賞で話題の「オートファジー」の謎に迫ります。また、吉森先生は、12月10日にストックホルムで開催されるノーベル賞授賞式にも出席されます。その様子を、「吉森先生のノーベル賞授賞式レポート!」と題して、帰国直後のホットな情報をレポートしていただきます。

※ナレッジキャピタル超学校 とは

大学や企業、研究機関などのさまざまな分野の研究者と一般参加者が一緒に考え、対話するナレッジキャピタルならではのプログラムです。これまでも「京都大学 iPS 細胞研究所」「大阪大学」「関西大学」「慶應義塾大学院メディアデザイン研究科」「国立民族学博物館」「大阪芸術大学」「JAXA」など共同開催し、一般の参加者と研究者をつなぐ場と機会を提供しています。

<開催概要>

日 程 : 【第1回】12月15日(木) 【第2回】2017年1月31日(火) 【第3回目】2017年3月(予定)
※HP でお知らせします
時 間 : 19:00~20:30(開場 18:30)
会 場 : グランフロント大阪北館1F「カフェラボ」
料 金 : 500円(1ドリンク込み)
対 象 者 : 高校生以上
申 込 先 : ナレッジキャピタル HP (<http://kc-ijp/>) より要事前申込 (各回先着 50名)
主 催 : 一般社団法人ナレッジキャピタル・株式会社 KMO・大阪大学 21世紀懐徳堂

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

一般社団法人ナレッジキャピタル 担当:奥村 亜紀 電話:06-6372-6427/FAX:06-6359-2970

※ナレッジキャピタルは、2013年4月に民間企業主体により開業した「グランフロント大阪」の中核施設です。「感性」と「技術」を融合し、「新たな価値」を創出する世界初の「知的創造・交流の場」として、開発事業者12社の出資により一般社団法人ナレッジキャピタルと、株式会社 KMO において運営しています。

<シリーズ概要>

大阪大学×KNOWLEDGE CAPITAL 「1に観察、2で仮説、3,4は実験、5で発見！」

考え抜いて、慎重に試して。思うようにいかずスタート地点に逆戻り。けれどこの方法はうまくないとわかったことが、それはそれでの大前進。仕事も勉強も良好な人間関係づくりも、わたしたちの毎日はこの繰り返しではないでしょうか。

観察→仮説→実験→考察という科学的検証のプロフェッショナルである研究者によれば、発見に至るプロセスに大切なのは好奇心と野心なのだそう。日々、(たぶん)落胆したり歓喜しながら大きな成果をあげ続けている大阪大学の研究者に、試行錯誤の醍醐味を聞いてみましょう。

■第1回 12月15日(木) 19:00~20:30 「オートファジーの謎を追う」

講師：吉森 保 (大阪大学大学院生命機能研究科教授)

【講師プロフィール】

大阪大学大学院生命機能研究科教授

オートファジー研究の第一人者として知られる細胞生物学者。学界ではビニールダックコレクターとしても有名。1981年大阪大学理学部卒業。同医学研究科博士課程修了。関西医科大学助手、基礎生物学研究所助教授、国立遺伝学研究所教授等を経て、2006年に大阪大学微生物病研究所教授。09年生命機能研究科、医学系研究科教授。



【内容】

本当かうそか定かではありませんが、タコはいざとなると自分の足を食べるという説があります。人間はいくらおながすすいても、自分のからだを食べるようなことはありません。しかし、我々の体の中の細胞は飢餓状態におちいると「オートファジー(自食作用)」という作用で、自分で自分を食べているのです。最近の研究・実験では、単に栄養を補給するためだけでなく、古くなった細胞内の部品をリサイクルする、侵入してきた病原菌をやっつけるなどの働きを通して、がん、アルツハイマー病、糖尿病、心不全、炎症、感染症といった様々な病気を防いでいることが分かってきました。今年10月に大隅良典先生がノーベル生理学・医学賞を受賞された「オートファジー(自食作用)」の働きと研究のこれからについて、じっくりお話します。

また、吉森先生はノーベル賞受賞者である大隅良典先生のご招待を受け、12月10日にストックホルムで開催されるノーベル賞授賞式にも出席されます。その様子を、「吉森先生のノーベル賞授賞式レポート！」と題して、当日のマスコミ報道にはのらない大隅先生との会話、会場の様子(晩餐会で隣の席はどなただったの?!食べた気はした?)など、帰国直後のホットな情報をレポートしていただきます。日本が世界をリードするオートファジー研究の黎明期を共に築いてきた吉森先生だけが知る大隅先生のお人柄、研究にかける情熱についても熱く語っていただきましょう!(大阪大学 21世紀懐徳堂)

■第2回 2017年1月31日(火) 「ヒトと人の社会 - 実験から読み解く経済と社会 -」

講師：犬飼 佳吾 (大阪大学社会経済研究所講師)

【講師プロフィール】

行動経済学、実験経済学、神経経済学を専門とする行動経済学者。2011年北海道大学大学院文学研究科博士課程修了、日本学術振興会特別研究員PD、大阪大学社会経済研究所助教を経て、2014年に大阪大学社会経済研究所講師。経済学、心理学、神経科学、行動生態学など異分野の境界領域の研究に取り組んでいる。



【内容】

ご存知の通り、経済学はいわゆる文系科目のひとつです。一般的に文系とくられる学問分野では「実験」はメジャーな研究手法ではありませんでした。しかし、ここ数十年で経済学を中心に社会科学分野での研究手法の流れが変わり、生物としての「ヒト」と文系の学者が扱ってきた「人」との間を結ぶ、野心的な試みに取り組む研究者が現れてきました。このトークでは、社会学者がなぜ実験をしなければならないのか、実験により社会や経済の何がわかるようになるのか、という話題から、文系理系という壁を超え、ヒトと人の作り出す社会や経済の仕組みの謎に迫る近年の取り組みの数々を紹介します。

※共催/大阪大学学術研究機構会議

※第3回目は2017年3月を予定しております。開催日は確定次第HPでお知らせします。

【施設概要】

施設名	ナレッジキャピタル	
所在地	〒530-0011 大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪 北館	
施設案内	The Lab. みんなで世界一研究所 (アクティブラボ・カフェラボ・イベントラボ)	地下1階～3階
	フューチャーライフショールーム	1階～6階
	ナレッジシアター	4階
	ナレッジサロン	7階
	コラボオフィス・コラボオフィスネクス	7階～8階
	カンファレンスルーム	8階・10階
	ナレッジオフィス	9階～13階
	コンベンションセンター	地下1階～地下2階
運営組織 代表者	一般社団法人ナレッジキャピタル 代表理事 宮原 秀夫 株式会社 KMO 代表取締役 三好 雅雄	
開発事業者 (五十音順)	NTT 都市開発株式会社 株式会社大林組 オリックス不動産株式会社 関電不動産開発株式会社 新日鉄興和不動産株式会社 積水ハウス株式会社 株式会社竹中工務店 東京建物株式会社 日本土地建物株式会社 阪急電鉄株式会社 三井住友信託銀行株式会社 三菱地所株式会社	